# 韓国へのスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの紹介

### 2013年10月20日

### スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年記念祝賀会(韓国)

### スワーミー・メダサーナンダによる講話

### 於・淑明女子大学校（Sookmyung Women’s University）

宗教の調和の預言者たるスワーミー・ヴィヴェーカーナンダに敬意を表し、ここソウルにて開催されたスワーミージの生誕150周年記念祝賀会にこうして参加できますことを大変嬉しく思います。このような祝賀会は世界各地で一年にわたり開催されていますが、本日のこの祝賀会は、この偉大なる国家の霊性の歴史において大きな足跡となる重要な出来事であり、4世紀の仏教の伝来や19世紀のキリスト教の到来に肩を並べるものとなるでしょう。

私は、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが誕生したインドに生まれるという恩恵に恵まれました。また、スワーミージが「真我の悟りと世界への奉仕」という二つの理想の下に創設した無宗派の組織に属し、偉大なるスワーミージが解き明かしたヴェーダーンタのメッセージをインド以外の国々で広め伝える仕事に携わるという恩恵に浴しています。本祝賀会の主催者から本日のプログラムのキーノート・スピーチをお願いいただいたのは、おそらくこのような理由からだと思います。

さて、本日の祝賀会に関して、次のような疑問が浮かぶのはもっともなことでしょう。

a. 「ヴィヴェーカーナンダの名前がほとんど知られていない韓国で、なぜこのような祝賀会を行うのか」

b. 「この祝賀会は、在韓インド人コミュニティにとっては意味があり、インド人とつながりのある韓国人が出席しているが、普通の韓国人はこの祝賀会に全く関係ないのではないか」

c. 「この祝賀会は韓国人にとって本当に意義のあることなのだろうか」

これからお話しする中で、これらの疑問について考えてみたいと思います。

古代における韓印の関係は神話や歴史の中にいくつか見受けられ、その中で最も重要なものは、インドから中国を経て韓国へと仏教が伝来したことでしょう。これが韓国に深く恒久的な影響を与えたことは生活のあらゆる点に認められ、今日でさえも明白です。

近年、韓印関係は、特に政財界において新たな局面に進み、両国間で人々の交流が増えています。訪印する韓国人の数は、ここ10年から15年ほどの間に著しい伸びを見せています。こうしたことはすべて、韓印関係史における新たな発展であり、非常に喜ばしいだけでなく、相互利益となる分野においてもさらに推進すべきでしょう。

親愛なるご友人の皆様、両国の関係はこのような状況にありますが、こうした関係の構築を検討すべき新たな分野について、私はある分野にご注目いただきたいと考えています。その分野は、視野に入っていないとまではもうしませんが、一般的には注目されていません。が、その分野こそが、インドの最も特徴的で永続的たる個性、インドの文化文明の礎でありインドらしさの中核を成すもの、すなわち霊的叡智という我が国の豊かな伝統が、現代の韓国社会にとって多少なりともお役に立てる領域なのです。というのも韓国社会は、物質的生活においては目を見張るほどの進歩を遂げていながら、重大な何かが欠落している兆候が見られるからです。

例えば、個々人の生活は真の平安にはあらず、むしろストレスに満ちています。家族関係はぎくしゃくし、心の病が蔓延しつつあり、自殺が驚くほど増加しています。こうした状況の原因は、せわしない競争社会に生き、西洋文化の浅薄な面だけに目を向け感覚的享楽を追い求めることにあるように思われます。このように、物質的繁栄だけを強調し追求することは、生活の質を高める一方、個人生活や社会生活における平安や調和を失う原因ともなるのです。このような矛盾にどのように取り組んで解決を図るかは、予てより、韓国を始めとする現代社会の課題であります。

さらに、個人の生活に関して言えば、人間が直面する根本的疑問について考えることがなく、そのため、物質的には豊かな生活を送りながらも「満たされない」状況を生む原因となっています。こうした根本的疑問とは次のようなものです。

a. 私は誰なのか。

b. 私はなぜ生きているのか。

c. 人生の目的とは何か。

d. どうしたら人生を満たすことができるか。

e. 人生の苦難にどのように立ち向かえばよいのか

f. どうすれば心をコントロールし強くなれるのか

g. どうすれば心の平安を持続できるのか

これらの疑問に私たちは目を向けないことが多いものですが、これらは私たちの生活において非常に重要なことであり、納得のいく答えを得る必要があります。さもなければ、人生の方向を見失い、満たされないままになってしまいます。第二に、人は仕事をしないではいられませんが、仕事はストレスや緊張を生むものです。ストレスなく仕事をする方法、すなわち、アクティブな生活を送りながら心の平静を保つ方法はあるのでしょうか。

第三に、現代の大きな傾向として顕著なことですが、宗教組織を敬遠する人の数が増えていることです。多くの人が宗教団体に加わることを望まないのは、こうした団体の多くには常に限界があるからです。この点についてヴィヴェーカーナンダは、「世界の宗教は血の通わない、まがい物になった」と言っています。ですから、次のような疑問がますます湧いてくるのです。「宗教組織に属さなくとも霊性を実践し霊的になることはできないのか」「宗教と霊性の違いは何か」「普遍的な愛と調和は、すべての宗教の本質であるのに多くの宗教組織に欠けており、むしろそうした宗教組織が教条主義や派閥主義、不寛容に満ちているのはなぜなのか」

さらに、あの手この手で信徒を集めようという競争があり、目先のことにとらわれる、内紛が発生するなどもあります。最悪なのは、宗教の名の下に他者への暴力の遂行を説くもので、その宗教組織内にそうした考えが根付きつつあるのです。こうした嘆かわしい状況に何か打開策はあるのでしょうか。

このような重要な疑問に対し、インドの霊的叡智の伝統を現代に説く、近代インドの最も偉大な霊性の大使　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダから、十分に適切な回答を得ることができるのです。ヴィヴェーカーナンダの講話や著作は、古代インド哲学ヴェーダーンタの普遍のメッセージに基づいており、合理性や普遍性、現代性、実践性を特徴としています。

スワーミージは単なる宗教家だったのではなく、それを大きく超えた存在でした。人道主義者であり、社会改革者であり、教育家、愛国者、世界市民でありました。また、偉大な組織の創設者でもあったのです。

スワーミージは諸宗教の調和を提唱しただけでなく、伝統主義と近代主義の融合、物質的繁栄と霊的価値観の融合、東洋と西洋の融合、そしてローカリゼーションとグローバリゼーションの融合の不屈の擁護者でした。

だから、マハトマ・ガンディー、ラビンドラナート・タゴール、シュリー・オーロビンド、ジャワハルラール・ネルーなどスワーミージと同時代のインドの偉人らや、レフ・トルストイ、ロマン・ロランなどの世界的思想家らが、スワーミージを評価し深い敬意を払っていたのです。例えば、ラビンドラナート・タゴールはロマン・ロランへの書簡の中で次のように語っています。「もしインドを知りたいと思われるなら、ヴィヴェーカーナンダを研究なさい。彼はすべてが肯定的で、否定的な部分は全くありません」

バラク・オバマ米国大統領のような世界の指導者らも、最近のスピーチの中でスワーミージを評価しています。2013年1月28日、英国議会は、スワーミージが「宗教間の調和と理解を助長・促進し、宗教を異にする人々による国際レベルの対話に貴重な貢献」を果たしたのを認める動議を可決しました。また、ある報告によると、マイクロソフト社の創立者であるビル・ゲイツ氏は、寝る前に必ずスワーミージの著作を数ページ読むと言っていたそうです。

ではここで、ヴィヴェーカーナンダの言葉をいくつかご紹介しましょう。時間の関係上説明はしませんが、これらの言葉は、先ほど申し上げた重要な問題を解決するヒントとなるでしょう。

a. 人生について

この人生は短く、世のつまらぬ事物は移り変わる。しかし、他者のために生きる人々だけは生きる。その他は、生きているというよりは死んでいる。

b. 宗教について

宗教とは教義にあるのではなく、知的な討論にあるのでもない。宗教とは、在ること、そして成ることであり、悟りを得ることである。それぞれの魂が神たる可能性を秘めている。内面と外面の性質を制御して、この内なる神性を現すことが宗教のゴールである。

c. 改宗について

キリスト教徒がヒンドゥー教徒になることを私が望んでいるかだって？とんでもない！ヒンドゥー教徒や仏教徒がキリスト教徒になるのを望んでいるかだって？とんでもない！キリスト教徒はヒンドゥー教徒や仏教徒になるのではないし、ヒンドゥー教徒や仏教徒がキリスト教徒になるのでもない。しかし、各人が他者の霊性を吸収し、同時に自身の個性を保ち自身の進歩の法則に従って成長を遂げなければならない。

d. 信仰について

信仰、信仰、自身への信仰、神への信仰－これが偉大さの秘密である。たとえ君たちが三億三千万の神話の神々を信仰し、また外国人が君たちの中に連れて来たすべての神々を信仰するとしても、自分自身への信仰を持たないなら、君たちへの救いはない。自身を信じ、その強さの上に立って強くなりなさい。

e. 弱さの克服について

弱さを克服する方法は、弱さについてくよくよ考えるのではなく、強さについて考えることだ。自分の中にすでに強さがあることを人々に教えなさい。強さは生命であり、弱さは死だ。

f. 個人や国家を偉大にする方法について

あらゆる人間、あらゆる国家を偉大にするのに必要なことが三つある。（1）善の力の確信、（2）嫉妬と迷信の不在、（3）善人になろうとし善を為そうとしているすべての人に手を貸すことである。

今申し上げた数例から、スワーミージのメッセージが深遠で深い霊性を有していながらも非常に力強く、フランスの高名な作家でノーベル賞受賞者のロマン・ロランがなぜ世界に注目を喚起したのかがお分かりになるでしょう。しかも、スワーミージがこうしたメッセージを放ったのは百年以上も前なのに、これらのメッセージは現在にも非常に当てはまる内容なのです。

スワーミージは諸宗教の調和の熱心な支持者であり、様々な機会に、特に1893年にシカゴで開催された第1回万国宗教会議で諸宗教の調和について語っています。英国の有名な雑誌『The Economist』の出版社が発行する、ライフスタイルと文化に特化した隔月雑誌『Intelligent Life』によると、この会議でのスワーミージの歴史的スピーチは、これまでに文書で記録が残っているすべてのスピーチの中で最高との評価を受けました。

スワーミージはスピーチの中でこう語っています。「私は強く望む。今朝この会議を祝して鳴り響いたあの鐘が、すべての狂信に、剣やペンによるすべての迫害に、そしてこれらと同じ道をたどらんとする人々の中に在る無慈悲の心に、終焉を告げる弔鐘であることを」

このスピーチが非常に大きな影響を与えた理由は、スワーミージの発言が、自身の師たる、近代インドの著名な聖者シュリー・ラーマクリシュナの言葉「信仰の数だけ道がある」に基づくものであったからです。

親愛なるご友人の皆様、以上の点から、この祝賀会は開催するだけの価値が十分にあるのだと分かっていただけたことと存じます。そして、これをきっかけとして、この国においてスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの本格的な研究が始まるよう強く望みます。スワーミージの研究やそれに伴う活動は、韓国の皆様の個人的・社会的生活の向上に大きく役立つでしょう。

そして、スワーミージを研究する最も良い方法は、スワーミージについての研究ではなく、『カルマ・ヨーガ』や『ギャーナ・ヨーガ』などのスワーミージの著書を研究することでしょう。私の知っている限り、現在、ラーマクリシュナとヴィヴェーカーナンダに関する本やヴェーダーンタに関する本は、韓国語ではほんのわずかしかなく、こうした書籍をもっと発行する必要があります。

ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・コリアは昨年創設されたばかりで、インド大使館など諸方面のご協力を得て本日のこの素晴らしい祝賀会を開催されました。このソサエティが、この国においてヴェーダーンタとスワーミージのメッセージを実践・普及する道具となり、この国とこの国の皆様のお役に立てますようお祈りいたします。本日ここにお越しの皆様、特にインドを研究されている韓国人の先生方、ヨーガ・グループの韓国人指導者の方々など、インドの霊性や文化伝統を少なからずご存じで理解されている方々、また在韓インド人コミュニティの方々にお願いいたします。創設間もないソサエティがその大きな使命を果たすことができるよう、どうぞご支援ご理解の程よろしくお願いいたします。

オーム、シャンティ、シャンティ、シャンティ、ハリ、オーム。カムサハミダ（ありがとうございました）！